

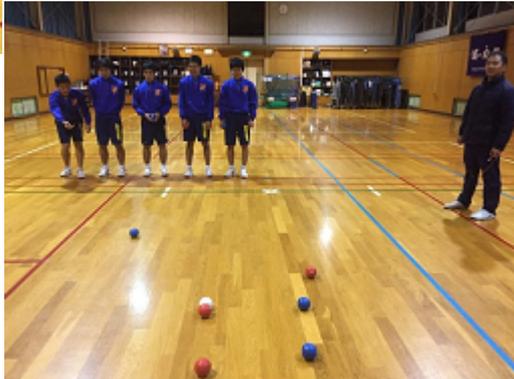
平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立西城陽高等学校 】

1 実践テーマ	【 III・V 】
2 実施対象者	京都府立西城陽高等学校 1・2・3年 全校生徒913名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (○ 体育)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	体づくり運動の領域で実施する中で、パラスポーツを理解するとともに、ボッチャの種目特性を理解し、ユニバーサルスポーツとして楽しむことができる。
5 取組内容	<p>ボッチャ</p> <p>① 体育授業での実施 9月下旬～ 講座ごとに実施</p> <p>ア ルール説明</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  <p>子であった。</p> </div> <div style="flex: 2; padding-left: 10px;"> <p>パラリンピック種目であるボッチャの説明を行った。初めて見るボッチャのボールとルールに興味を持った様子であった。ジャックボール（白いボール）を投げて、その後赤いボール・青いボールと投げ合い、ジャックボールから遠いチームが投げるなど基本的なルールの説明を聞き、理解した様子であった。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start; margin-top: 10px;"> <div style="flex: 1;"> <p>実際に球を置き、得点方法について説明を行った。</p> </div> <div style="flex: 2;">  </div> </div>

	<p>イ ゲーム形式・実践 ゲームの趣旨を理解したうえで、仲間と交流を図りながら作戦を立て、工夫して行うことができた。</p>  <p>ゲームの特性がわかってくると生徒たちは上達するのが非常に早く、盛り上がって行うことができた。</p> <p>ジャックボールに向けて転がす中で、チーム内で作戦を立てて行うことができた。</p> <p>全講座が同様な形でボッチャを実施した。</p> <p>② 校内教員研修での実施 体育授業で実施すべく教員間でも研修を深めた。</p>
6 主な成果	<p>パラスポーツの特性と理解 生徒たちはボッチャを体験すること自体初めてであり、実際にゲームを行うことで、シンプルなルールではあるが、その中にあるゲームの特性や深さ、難しさを感じていた。平昌オリンピックでカーリングが人気となり、ゲーム特性が似ていることもあり、仲間と交流を図り、意見を出し合う中で工夫が生まれた。また、普段では体験できないパラ種目を行うことで、ユニバーサルスポーツとしての価値を理解したと考えられる。教員においても研修を通してボッチャの深みに触れ、授業等で今後実施していく方法を学ぶことができた。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>ボッチャへの関心 授業で実施するうえで、複数の教員がルール等を理解し、指導していかなければならない。そのため、保健体育科研究協議会実技研修会への教員参加や、保健体育科内教員研修を通してボッチャの定着を図った。</p>
8 主な課題等	<p>支援学校との交流 特別支援学校と連携を図って行うことが理想であり、交流を通してより充実した内容や効果が得られると考えるが、本校の授業時間と相手校との時間の調整が難しいという課題がある。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>学校全体での取組 次年度以降も継続して、授業内でパラ種目への取り組みを行っていきたい。全校生徒が少しでも興味を持ち、東京パラリンピックで見る観点からの楽しさや喜びを共有する態度を養ってもらうために、継続して取組を行えるように進めていければと考えている。</p>